

実践報告

精神科病院看護部におけるプリセプター研修：実践報告

向畑毅¹⁾、八田篤郎²⁾

1) 兵庫医科大学看護学部 2) 医療法人尚生会湊川病院看護部

Preceptor Training in the Nursing Department of a Psychiatric Hospital: A Practical Report

Tsuyoshi MUKAIHATA¹⁾, Atsuro HATTA²⁾

1) School of Nursing, Hyogo Medical University 2) Department of Nursing, Shousei-Kai Minatogawa Hospital

抄 録

2023年に全3回で開催された「プリセプター研修」は、兵庫県にある精神科病院である医療法人尚生会湊川病院の看護部に在籍するプリセプター（新人看護師（プリセプティ）の教育担当看護師）を対象にプリセプターの自信獲得および指導力向上を目的とした現任教育であった。この研修は湊川病院の精神看護専門看護師と兵庫医科大学看護学部教員がそれぞれ実践的視点と研究的視点を持ち寄り協働しながら作成・実施した研修であった。議論から抽出した現在のプリセプターの抱える問題を土台として、「ストレスマネジメント」「プリセプティの居場所づくり」「患者に寄り添う看護計画立案」という3つを研修のテーマとした。2020年から続くコロナ禍の影響もあり、13名いるプリセプターの中には参加できない者もいたが、参加者から概ね良好な評価（例えば、「実践への活用につながった」という意見）を得られた。一方、より分かりやすい研修へ改良していく余地もあった。本稿が今後のプリセプター教育だけでなく新人教育ひいては質の高い看護師育成に役立つ資料となることを期待する。

キーワード：精神科、看護師、プリセプター、研修
Psychiatry, Nurse, Preceptor, Training

I はじめに

本稿で報告する「プリセプター研修」は、2023年に兵庫県にある精神科病院である医療法人尚生会湊川病院（以下、湊川病院）の看護部で開催されたものであり、プリセプター制度におけるプリセプターを対象とした看護師現任教育である。プリセプター制度と

は、プリセプター（先輩看護師）がプリセプティ（新人看護師）をマンツーマンで教育・指導やフォローをする制度である¹⁾。このプリセプター研修は、湊川病院看護部の教育担当である精神看護専門看護師（第二著者；以下、専門看護師）と兵庫医科大学の看護教員（筆頭著者；以下、大学教員）が協働し、プリセプターの自信獲得および指導力向上を目的として開催され

た。2023年度は長引くCOVID-19の影響が続いており、湊川病院看護部においても人手不足が生じ、プリセプターの研修参加が容易ではない状況であったが、病棟の協力により参加できたプリセプターの研修への満足度は高かった。また、この研修は、臨床実践家である専門看護師と研究者である大学教員が議論を通して協働で作成・実施したという点でも一定の意義があったと考える。本稿では、プリセプター研修の概要、実際、および今後の展望について述べる。この内容が今後のプリセプター教育だけでなく新人教育ひいては質の高い看護師育成に役立つ資料となることを期待する。

II プリセプター研修の概要

1. 開催施設

開催施設である医療法人尚生会湊川病院は兵庫県にある単科精神科専門病院である。急性期病棟と慢性期病棟をそれぞれ複数もち、約250病床の中規模施設である。

2. 参加者

参加者は、湊川病院で2023年度にプリセプターを担当した精神科看護師であった。湊川病院から通知のあった参加候補者13名の属性は表1の通りである。

3. 研修の日程

研修は全3回であり、2023年5月23日（第1回）、6

月27日（第2回）、8月30日（第3回）に対面で開催した。開催時間は参加者の勤務帯で午後2時間の枠を設定した。

4. 研修の計画

専門看護師から研修依頼を受けた後、大学教員と専門看護師の間で研修内容について複数のオンラインミーティングを実施し検討した。専門看護師は現場の視点を、教員は理論的視点をそれぞれの強みとして議論した。その過程で

- 1) プリセプター自身のストレスマネジメントの必要性
- 2) プリセプターがプリセプティの悩みを解決しないといけないというプレッシャーを感じていること
- 3) 看護計画立案への自信のなさ

が課題であることが明らかになった。これらの課題を解決することは、プリセプターの自信獲得および指導力向上につながると考えた。上記1)～3)のそれぞれが第1回、第2回、第3回の研修内容に対応するように設計した。

5. 研修の目標と構成

研修の各回の目標は、表2の通りである。各回は、講義と演習から構成されており、大学教員が講師を、専門看護師が参加者の理解促進等のファシリテーターを担当した。

III プリセプター研修の実際

1. 参加状況

参加者は、第1回7人、第2回6人、第3回6人であった。プリセプターが13人いる中で参加率が半分程度であった理由は、2023年度はまだCOVID-19の影響で人手不足が発生していたことがあげられた。しかし、病棟は可能な限り研修参加できるように努めた。

表1. 参加候補者の属性（13名）

属性	人数
性別	
女性	11
男性	2
経験年数	
2年目	5
3年程度	1
5年目	1
10年程度	2
30年以上	3
その他(中堅)	1
病棟	
救急期病棟	8
慢性期病棟	5

表2. 研修の目標

回	各回の目標
第1回	自分自身のストレスマネジメントについて学ぶ
第2回	プリセプティの問題解決の前に押さえるべきことを学ぶ
第3回	患者の希望に寄り添う看護に向けた看護計画を学ぶ

2. 研修の実際

1) 第1回研修

ストレスマネジメントの具体的な方法として感情調整方略²⁾を学ぶ研修内容とした。図1は研修で使用したスライドの例である。

参加者にはスライドに照らし合わせて自分のストレス反応（感情/行動）の要因となる出来事、認知、自分の傾向を想起してもらい、それらを調整する方法を検討してもらった。参加者は、自分にとってのストレスの原因（出来事）を頭の中で思い浮かべて、それをどう受け止めているか（認知）、そして結果的にどのような感情や行動に至ってしまっているかを回想し、まずはしっかりと自分の状態を知ることが大切であることに気づいた様子であった。また議論を通してストレスの取り扱い方のヒントを得たことで次からそれを使ってみようという意見があった。

2) 第2回研修

テーマは「プリセプティの問題を解決する前に押さえないこと」であり、ここではプリセプターがまずプ

矢印は、ストレスマネジメントのターゲット

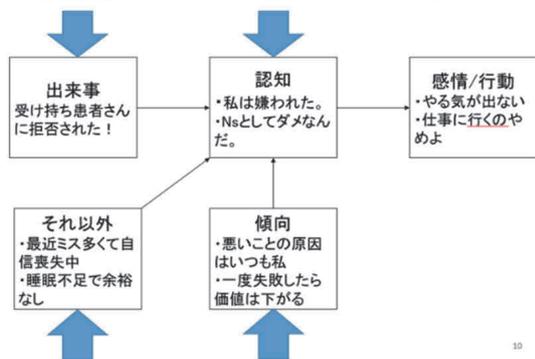


図1. ストレスマネジメントのスライド（第1回研修資料より）

4. ディスカッション

Q1: (普段の接し方)

みんながプリセプティにとって安心できる存在になるため(傾聴・共感する場面を作り出すため)に普段からどんなことを取り組んでみたいですか？※スライド10参照

- 私が普段から行うこと
- 理由(～のために、～の効果を期待して)

Q2: (不安がある場合の接し方)

みんなが想像するプリセプティが抱える不安とそれに対してできることには何があると思いますか？※スライド7参照

- プリセプティの不安は？
- その時私ができること

図2. ディスカッションに関するスライド(第2回研修資料より)

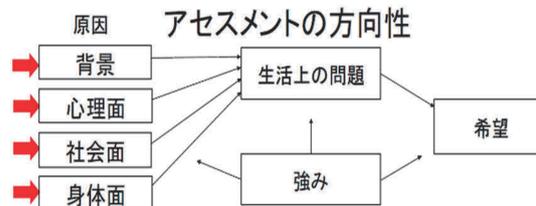
リセプティの悩みをしっかりと傾聴、共感、受容する重要性を学ぶ機会とした。図2は研修で使用したスライドの例である。

参加者は、プリセプティが抱える様々な悩みにどのように関わることが重要であるかを議論し、まずはプリセプティが安心して働ける居場所（心理的安全性）を獲得できることが大切であるという結果を得た。参加者は最初、自分たちがプリセプティの悩みを解決しないとイケないと考えており、その自信がないことに困っていたが、問題解決の前に自分たちがプリセプティにとって安心できる存在になることが大切であるということに気づいた。そしてプリセプティが本来持っている困難を乗り越える力を引き出すことが重要であると思いついた様子であった。

3) 第3回研修

患者介入のための計画立案の手順、方向性について学ぶ機会となった。図3のスライドは、対象者（患者）の「希望」、その希望に影響を及ぼす「生活上の問題」、「患者の強み」、さらにそれらの「原因」の関係を表している。この関係を土台として、原因に介入する、あるいは強みを強化することで生活上の問題が解決し、結果的に対象者の希望につながることを説明している。

参加者は、実際に自分が担当している患者を題材としてホワイトボードに原因、強み、生活上の問題、希望を記載していき、必要な看護計画（原因や強みへの介入方法）をグループワークで検討した。参加者からは「これまでは自分ができるケア（自分中心のケア）を探していたが、患者さんの希望を中心に考えていくことが大切だと感じた。」という感想がきかれ、患者に寄り添う看護と方法について学びが多かった様子であった。



アセスメントの方向性	
①	患者・患者家族の将来への希望、医療者の見通し
②	生活上の問題は何？種類をヒントに探す。
③	原因は何？
④	強みは何か？
⑤	目標設定
⑥	患者はその現状をどう認識しているのか？

図3. アセスメントの方向性のスライド（第3回研修資料より）

4) 評価

第3回研修後に行われた参加者による評価では、研修の分かりやすさ、進む速さ、内容の難しさの項目において、「分かりやすかった (83%)」、「やや早い (50%)」、「やや難しい (67%)」という評価であった。進度の速さと内容の難しさを感じている参加者がいたため、もう少し具体的で理解しやすい内容で、かつ参加者の理解度に合わせた進行をする必要がある。

自由記載では、「実践への活用につながった」「自身の実践に対する気づき」「アセスメントの手がかりになった」などが記載されており、実践における一定の効果が期待できるようであった。

IV 今後の展望

今回の研修は精神科病院看護部のプリセプターを対象にプリセプティ教育の自信獲得と指導力向上のため、専門看護師と大学教員がそれぞれ実践と研究の視点を議論させ作成し実施した。参加者は理論的な講義内容を少し難しいと感じながらもある程度理解でき、また実践における自信も獲得できたようである。評価内容に見られる反省点を今後修正しながら研修内容をさらに発展させていき、将来の質の高い看護師育成を目指していきたい。

謝辞

今回の研修を実施するにあたり、多忙の中プリセプターが参加できるように采配して下さった病棟管理者様、その間病棟を引き受けて下さったスタッフの皆様、および研修の環境を快くご提供くださり、さらに本稿の投稿許可をくださった病院管理者様とその関係者の方々へ心より御礼申し上げます。

文献

- 1) 吉井良子. 新人教育とプリセプターシップ. 看護展望. 1992, 17(5), p. 17-31.
- 2) Peña-Sarrionandia, A.; Mikolajczak, M.; & Gross, J. J. Integrating emotion regulation and emotional intelligence traditions: meta-analysis. *Front Psychol*, 2015 Feb 24;6:160. doi: 10.3389/fpsyg.2015.00160.